

課題解決型高度医療人材養成プログラム 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

テーマ①：精神関連領域

		整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学		
事業名	メンタル・サポート医療人とプロの連携養成		
事業責任者	大学院医学研究院認知行動生理学教授 清水 栄司		
事業の概要			
<p>一般日常診療の場で遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等を持つ患者及び家族が向精神薬依存にならないよう、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等がセルフヘルプをガイドする月1回30分計6回の簡易（低強度）認知行動療法的アプローチによる相談支援を行うメンタルサポート医療人（メンサポ：英国でのPsychological Wellbeing Practitionerに該当）養成をオンライン授業やネット教材を活用して行う。同時に、統合失調症や双極性障害等の難治性精神疾患や司法精神保健、ギャンブル依存に対して精神科医が生物-心理-社会的観点からの適切な診断と薬物治療を提供できるメンタルプロフェSSIONAL（メンプロ）養成を行う。一般医療者と精神科医が共に学ぶ症例検討会を演習として行い、うつ不安尺度のデータを基にした軽症者と重症者の相互紹介ネットワークモデルを推進し、全国に普及する。</p>			
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○精神科医を対象としたプロフェSSIONALコース及び医療者が患者・家族のセルフヘルプをガイドするサポート者教育コースが設けられているほか、補助期間終了後における、事業の拡大、継続性についても明確なビジョンが示されている。</p> <p>○評価指標も明確で全国への拡大戦略も具体的であり、独創的と評価できる。</p> <p>○認知行動療法における実績の下、段階的ケアをシステムとして構築するためにそれぞれを担える人材の育成、その人材同士の連携が可能になるプログラムの構成が優れている。また、多職種が共通して修得することが可能なものとなっている。</p> <p>○医師以外の職種についても、地域薬剤師会等との連携による実臨床を踏まえたプログラムとなっているほか、認知行動療法士の認定取得等が検討されているなど、それぞれの専門性の修得を目指している。</p> <p>●事業の担当者数が非常に多く、職種間の意見調整などに偏りの問題が生じる可能性があり、コアな担当者とサブの担当者に分ける必要があるのではないかと考えられる。</p> <p>●「職種を横断した体系化された教育プログラム」と記載があるが、職種間での連携、各職種における受入れ目標人数配分の妥当性、また、メンサポとメンプロとの連携はどのように構築されるのか不明確となっている。</p>			